

# 釜ヶ崎伝道支援だより

救いと  
生活の必要と  
社会的な回復をめざして

## 巻頭言

「この世界のただ中で」

松本 民雄



7月のある日、釜ヶ崎支援委員会から巻頭言を依頼されました。突然のことで戸惑いしましたが、ちょうど「釜ヶ崎伝道支援だより」の78号を読んでいたタイミングでもあり、みこころと信じて受けとめました。

私は大阪南部の新興住宅地で育ちました。父は大阪府の職員、母は元教員で、周りの友人のほとんどは会社員の家庭の子どもでした。釜ヶ崎とは別世界に思える環境で育った私が、初めて釜ヶ崎に触れたのは中学生の時、父の本棚から一冊の本を手にとった時です。マンガに描かれた主人公「カマヤん」から、この世界のただ中に存在する現実を垣間見たように思いました。

私は大学生になって、開発途上国

の貧困問題に関心を持ちました。今から思うと「カマヤん」の影響がありました。もっと世界を肌で感じたい、直接関わって深く学びたいと思うようになり、釜ヶ崎を飛び越えてフィリピンに留学しました。そこでクリスチャンの働き人たちとの出会いがあり、人生を変えるキリストのお働きを目撃し、ついには私自身がイエスさまを信じて救いの恵みを受けることになりました。結局フィリピンには6年間滞在し、当地の日本語教会に通い神学校を卒業して、故郷にある教会（岸和田東聖書教会）の伝道師になりました。

ここでようやく、初めて、釜ヶ崎を訪ねる機会が与えられました。西成めぐみ教会に支援物資を届けに行ったのですが、釜ヶ崎の混沌とした雰囲気、独特のむっとするにおいや埃っぽさは、まさに途上国のスラムのようでした。実家からたった40キロ北に存在する現実に私は圧倒されました。しかし同時に、その現実の

ただ中で福音を携えて働く野上先生の姿に、かつてフィリピンで出会った働き人の姿が重なりました。そして釜ヶ崎においても、人生を変えるキリストのお働きを再び目撃して、救い主なる神をほめたたえました。

釜ヶ崎訪問の印象がとても強かったので、現在の妻との婚約中に釜ヶ崎デートを決行しました。お忙しい野上先生にはあえて連絡せず、教会堂の周辺を見るだけのつもりでしたが、新今宮駅を出てすぐの交差点でバッタリ先生にお会いしました。この時の先生はお急ぎ中で挨拶を交わしただけでしたが、その時以来、私と妻は釜ヶ崎との繋がりを意識し続けています。埼玉県教会に移ってからも、極々微力ながら支援を続けています。

今、私は自分の働きと生活で手一杯な感じです。さらにはコロナウィルスの感染拡大による不安があり、また頻発する災害の被害のことなども思うと、心の中まで一杯一杯になってしまいます。ともするとフィリピンで経験したことや釜ヶ崎のことが遠く記憶の彼方、まったく別世界のことになりそうです。そんな私を改めてこの世界の現実へと引き戻してくれるのが、定期的に届けられる「釜ヶ崎伝道支援だより」です。

私は「釜ヶ崎伝道支援だより」を受け取るたびに、改めて釜ヶ崎への関心呼び起こされます。この世界のただ中で働かれるキリストに思い

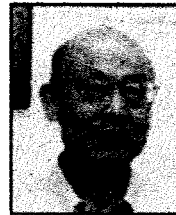
を向ける機会を与られます。神がそのひとり子イエスさまをお与えになったほどに世を愛された（ヨハネ3:16）、その救いの愛を自らの愛としておられる野上先生ご夫妻と、西成めぐみ教会の働きに思いを向けて、祈ることができるのです。

(東川口福音自由教会牧師)



### 釜ヶ崎と西成めぐみ教会の近況報告

野上綾男



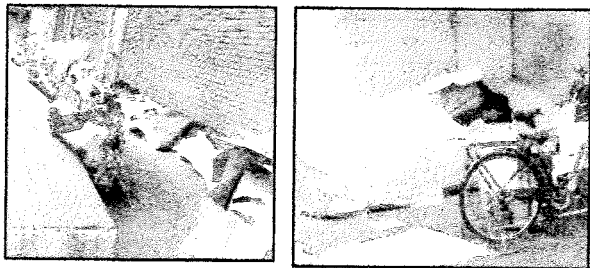
#### ●釜ヶ崎地域の状況

コロナの感染拡大により観光客は途絶え、当て込まれていた地域

のホテルや民泊は閉じられたままです。但し、地域ですでに始められているホテル等の建設工事は、とどまることがありません。コロナ収束後の万博等の開催が、見据えられているように思われます。

このように開発整備が進められていく過程で、これまでなされていた地域の路上や公園等での付き合いが、徐々に肩身が狭く不自由なものになってきています。現在、地域で野宿できる場所は、おもに労働センターの周辺になります。ある人たちは生活保護受給の申請を勧められていましたが、様々な事由により、大半の人が日雇労働やアルミ缶の回収等に

[センター周辺での野宿の様子]



よる自活の生活を望み、野宿生活を続けています。

この度大阪府により、労働センター周辺の「土地明け渡し断行の仮処分」(本訴によって十分な審理を尽くさなくても、センター周辺の野宿生活者を強制排除できる法律上の権利を得るためのもの)を求める裁判が起こされました。センター周辺で野宿している求道中のU氏も、裁判では問題点と窮状を訴えました。地域ではこの件に関して、労働センター取り壊しの理由とされている耐震性については、耐震工事の施工等により充分対応できるとして、デモを重ねながら抗議が強く続けられています。

### ●西成めぐみ教会の状況

この度は蔡師夫妻、全師(WE国際宣教会宣教師)、福島兄(東京基督教大学生)、宮本姉(生駒めぐみ教会)、片岡兄(淀川聖書教会)の方々がお訪ねくださいました。炊き出しのご奉仕やお交わりを頂き、教会は感謝しています。

### \*地域における炊き出しについて

私が釜ヶ崎に来ましたのは、バブ

ル崩壊の直後になります。労働センターの周辺では、労働者を募集する手配師の声が交錯するほどの景気の余韻が残っていました。しかし次第に仕事が減り、手配師が姿を消していきました。地域の路上、公園や労働センターは、たむろしている人たちで溢れていました。仕事が途絶えてドヤでの宿泊が出来なくなった多くの人たちが、次第に野宿を余儀なくされていきました。地域の路上や公園のみでなく、地域の外にも野宿が広がり、商店街のアーケードの下、市中の死角になる場所や公園、地下鉄の通路等が野宿の場所として利用されました。このことにより野宿生活が可視化され、差別や嫌がらせ、また死に至る襲撃がなされたこともあります。

ところで野宿生活者の生活手段は、アルミ缶や段ボール紙の回収、露店等になっていました。多くの方は、一日の収入が5、6百円位でとても少なく、地域の公園において行われていたボランティア団体による炊き出しを利用していました。その内容は粥でしたが、利用する人たち



3 [数日で集めたアルミ缶で1,500円位とのこと]

[リヤカーでの段ボール紙の回収]

[蔡宜教師による奉仕の様子]



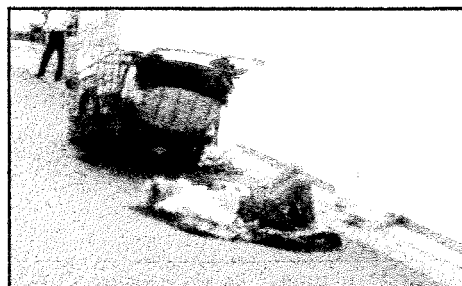
の列は、公園とその周辺の回りを二重にも三重にも廻ることがありました。西成めぐみ教会は、この炊き出しに連携的に参加しました。兄弟たちと共に、粥に入れる佃煮昆布とお握りを用意しました。また諸教会のご支援により与えられましたバナナや、ときにはインスタントラーメン、缶詰等、そして夏には冷たい麦茶が喜ばれていました。

日中は、夜間のアルミ缶集めを終えた人や仕事にあぶれた人たちが、労働センターで休憩していました。そこで教会では公園での炊き出しとは別に、簡易弁当と味噌汁を用意して分かち合ってきました。

その後、地域内には行政によるシェルター（夜間一時宿所）が設けられました。多くの野宿生活になっていた人たちが、野宿の不便や危険を

さけてシェルターを利用するようになりましたので、以後はシェルターの前で炊き出しを行うことにしました。兄弟たちや諸教会の兄姉方と共にお握りを作り、佃煮昆布をのせてラップで包みました。炊き出しの場では、お握りや海苔、味噌汁と共に、ときにタオル、下着、靴下、手袋、使い捨てカイロ等を各自に手渡ししていきました。衣類につきましてはサイズを各自で確認して、自由に選んでもらいました。

コロナの感染拡大防止で自粛が要請されました時、三密を避けるためとしてシェルターの利用方法が変更されました。これまでのように利用券を手にして並ぶこともなく、入所は午後、比較的自由になっていますので、シェルター前での炊き出しは時間的にも、また感染防止のためにも難しくなりました。そこで、これまでなされていた労働センター周辺や、ガード下等で野宿生活になっている人たちへの簡易弁当の分かち合いの回数を、増やすことにしました。



[センター付近の路上で休憩をとる人たち]

兄弟たちと共にフードバックに入れたご飯の上に、佃煮昆布、漬物やソーセージ、ゆで卵、また諸教会からご支援いただきましたおかず、缶詰の魚等を載せて分かちあいます。袋に入った海苔、味噌やマスク等も持参しますが、別けても蚊取り線香は喜ばれました。野宿生活になっている人たちとは、個人的、具体的な会話を交わすこともあり、関心をもって来会している人もいます。

この度のコロナの感染が収束する頃までには、地域に一定の変化が予想されます。地域で暮らす人たちにとって不利になるような事態になりましたときには、兄弟たちと共に主の御前にふさわしく仕えていきたいと思っています。

家族のためにもお祈りくださいまして感謝致します。言愛(大3)は、リモート授業が続き、少し疲れているようです。私は妻とともに、皆様のお祈りに守られながら釜ヶ崎伝道の働きに与ることができまして感謝しています。(西成めぐみ教会牧師)

### 信仰者の証詞

#### M兄

「私の父親は医者でしたが、無茶苦茶な人でした。いつも自分を偉い者



として自慢話をしていました。父親を見ていて、人間っていい加減なものだと思ったり、生きていて意味があるのかと思ったりして、生きているのが嫌になっていました。その後、医学部に進みましたが、医学の学習に嫌気がさしてきて、うつ病が進み中退することになりました。父親の下で手伝いをしていましたが、生きることが息苦しくなり家を出ることにしました。

ネットで調べて釜ヶ崎のことを知り、そこへ行けば自分のような者でも、なんとかやっていけるのではないかと思われました。それで10年ほど前に釜ヶ崎に来ました。貯えがなくなってからは労働センターの近くで野宿をして過ごしました。その頃には躁うつ病と診断され、私の病気を知った人が生活保護を勧めてくれました。

釜ヶ崎に住んでいて驚いたことがあります。覚醒剤の注射器が落ちているのです。またある日、一人の人が路上で亡くなっていましたが、警察はまともに取り扱わなかったように思えました。それで私は釜ヶ崎について、安心できないところだと思いました。

ところで私は、日用品を求めて教会のバザーに寄りましたとき、先生から声をかけられたのがきっかけに

なりました。それから数日後に地域で先生に出会い、教会に誘われたので、行ってみようと思いました。「レ・ミゼラブル」には、たましいの救いや罪について書かれていたので、聖書の話をもっと聞きたいと思ったのです。聖書を少しずつ理解する努力をしました。そしてイエス・キリストの十字架の救いのことがわかるようになってきました。

私は、人間は正しく生きようとしても、できないものだなと思っていたのです。私の父はいつも偏見で人を見て、悪口を平気で言う人でした。でも私は、なるべく正しいことをしたいと思ってきたのですが、どうしてもできませんでした。あるとき聖書を開くと、そこには次のように書いてありました。「私は、したいと思う善を行わないで、したくない悪を行っています。私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。」この聖書のことばを読んで、本当にそうだなと思いました。



[センター取り壊し反対デモの出発の様子]

今は、イエス様の救いを信じて感謝しています。イエス様は私の罪を赦してくださって、弱い私を、病気も含めて守ってくださることを感謝しています。私はイエス様の救いを知って信じてからは、教会の礼拝を守り、奉仕にも参加しています。今は教会にある信仰書を少しずつ読み始めています。」



### 釜ヶ崎を訪問して

全 青鴻



私は大阪・釜ヶ崎の西成めぐみ教会の奉仕に参加しました。西成めぐみ教会で

は、お弁当を作ってホームレスの人たちに配っています。この教会の野上牧師ご夫妻は、三十年間ほどこの奉仕をなさっています。コロナ以降は、シェルター前での炊き出しが出来なくなったので、お弁当を作って巡りながら配っています。

ホームレスの人たちは今日一日の生活に汲々として感染や衛生について無関心なように見えました。それだけでなく、ほとんどのホームレスの人たちは、住民

[センター周辺での簡易弁当等の分かち合い]



票がないから特別給付金を受けることができないそうです。

牧師は生活保護受給者とは弁当を分かち合わず、路上生活で助けを必要としている人たちと分かち合いました。しかし、みんな愛と関心が必要な人たちでした。

兄弟たちは、教会のチラシを配ったり、分かち合いについて説明をしたりすることは一切なく、ただお弁当と衣類等の必要なものを配るだけでした。ボランティアは人々を教会に連れてくる手段ではなかったからです。ただイエス様が教えた通り、貧しくて疎外された者たちを助けようとするだけでした。

人が全くいなさそうなごみの中にも、誰かいました。お弁当を一つもらって、心から感謝している方々の顔を見ながら、わたしも心から祝福しました。目の前に悲惨な現実と向き合って、「頑張ってください」という言葉は喉に詰まって出てきませんでしたが、「君は愛されるために生まれた、今でもその愛受けている」と信じながら祝福しました。

牧師はホームレスの人たちは社会的な差別によって、一層この街で追い込まれ、また貧しさが受け継がれていると言いました。一度落伍者として烙印を押されると、再び社会に復帰することはとても難しいことだと。さらに、ホームレスの人たちの間にも、また別の差別があるそうで、罪人である私たちに差別は終わらない問題のようです。

主イエス・キリストがこの人々にもすばらしい喜びの知らせになるでしょうか。人生の厳しさに隠れて見られない罪に向かう神の怒り、そして神が切り開いておかれた救いの道を見つけることができれば、一度だけの人生を尊く生きることができるのですが。この方々にイエスを伝えたいです。どうすればいいのでしょうか。すでに私たちは答えを知っています。

「イエス様が受肉されたように、死ぬまで愛したその愛で！」

しかし、この一文はもしかしたら一生抱えて悩まなければならない宿題と思います。

キリストがまたこられる日まで

(WEC 国際宣教会宣教師)



\* 釜ヶ崎伝道支援会2020年度会計(6~9月)報告

◆ お祈りください ◆

費目	金額(円)
収入	
献金	1,923,600
繰越金	-263,947
収入合計	1,659,653

いつも釜ヶ崎伝道のために  
お祈り下さり、また尊いご献  
金・ご献品をもってご支援下  
さいまして、心から感謝いた  
します。

会計:小林 久実  
(奈良福音自由教会牧師)



費目	摘要	金額(円)
支	会堂維持費	固定資産税 52,300
		火災保険 24,100
	事務通信費	事務用品費 4,139
		通信費 22,185
	人件費	払込手数料 23,475
		人件費 640,000
		福利厚生費 77,501
		講師謝礼 20,000
		諸経費 28,130
	出	炊出し支援費
伝道活動費		交通費・諸費 68,360
広報活動費		ニュースレター発送 36,828
自動車関係費		自動車保険 67,460
		自動車税 34,500
会議費		支援委員会 5,342
繰越金		79,423
支出合計	1,659,653	

○釜ヶ崎伝道が、諸教会の祈  
りと支援の中で進められて  
いきますように。

○西成めぐみ教会の兄弟た  
ちの信仰と健康が守られ、救  
われる方が起こされるよう  
に。

○釜ヶ崎での必要のために、  
炊き出し等の活動が用いら  
れるように。

○野上師夫妻の霊肉が支え  
られるように。

○今後の釜ヶ崎伝道の後継  
者が起こされるように。

[釜ヶ崎伝道支援委員会]

◆支援献金(敬称略・順不同) 2020年6月~9月

栄福音教会、観音寺聖書、淡輪聖書、奈良福音自由、岸和田聖書、松山聖書、金剛聖書、衣笠中央教会、丸亀聖書、  
仁心教会家庭集会、湘南のぞみ教会、生駒めぐみ、白金教会、岩倉教会、グローリー・チャペル高松、アライズ庄原基督、  
大磯教会、川越聖書、ニューホープチャペル掛川・浜松婦人会、近江福音自由、湘南アソカ教会、高松ソノ、八栗ソノ教会、  
福音自由祝園チャペル、国際チャペル、高松西教会、教会教朝顔、向島福音自由、阿武山福音自由、浜田山教会、  
生田丘の上教会、小倉聖書、保守バプティスト教会、御徒町教会、久居聖書、国分寺教会、平塚福音教会、古川福音自由  
川井浩三、町川洋三、蔡建輝・温嘉儀、宮本則彦・有里、塚本智子、大高伊作、藤田進、小神伊佐子、田澤美智子、  
稲垣博史、館脇暁美、藤井晴雄、坂本献一・美香、尾形貴美夫、平井紀子、清水真理、植木英治・優子、門谷信愛希、  
宮脇洋司・恵子、脇坂勇、鈴木秀子、篠崎八恵子、池田彦彦、羽鳥頼和・路津子、村田美智子、斎藤潔・ますみ、  
植杉峯子、スガノ、河合育子、岩下幸子、庄野宇代、土井政男、嘉数修、馬場妙、生島幹也、柳下弘、野田博之・直美、  
内田政江、桑原弘佳・敏枝、風間亮太・愛実、森本範博・のり恵、深谷愛美・通子、八木妙子、川村寛一、藤村陽子、  
徳梅陽介、榎木由行、五十嵐一雄・千鶴子、渡辺恵子、吉見信人・桃子、藤田直子、佐味秀雄・恵、加藤雅、松下茂、  
羽鳥黎子、青木多津枝、木村美紀子、羽鳥敏子、金木昂一郎、兼松千佳子、島津和子、森裕子、末永洋子、小瀧愉梅、  
渡辺則子、横倉順治・やよい、櫛田節夫・弥生、松本民雄・亜紀子、辻直人・香、池端志津子、奥田健一、拝高潤一、  
北島佳代子、木下学・多津子、村松健二、(株)太陽食品、岩井清、比良岡美智代、木村英基、鈴木忠義、松波正信・圭子、  
佐藤勝徳、鎌田博・由美子、永井比和子、西機哲夫・久美、匿名(6件)

◆支援献品(敬称略・順不同) 2020年6月~9月

クイスト・コミュニティ武庫之荘チャペル、高松ソノ、中山教会、八栗ソノ教会  
奈良崎満・直子、嘉数ひとみ、梶原秀子、加藤雅、内田政江、大鐔秀樹・一枝、猪熊由利子、篠崎八恵子、倉成裕子、  
森本範博・のり恵、安孫子武・日登美、横倉やよい、(株)太陽食品、藤田直子、小神伊佐子、加藤哲夫、宮本則彦・有里、  
山田忠、中村セツ子、小杉泰正、平井紀子

釜ヶ崎伝道のためにお祈り下さり、尊いおさげのものをもってご支援下さいますこと、心より感謝申し上げます。  
尚、お問い合わせ等は下記までご連絡下さいますようお願い致します。 [釜ヶ崎支援事務局]

釜ヶ崎支援事務局 〒583-0841 大阪府羽曳野市駒ヶ谷1127

Tel/Fax 072(958)7544

E-mail nre31277@nifty.com

郵便振替

00910-8-141952

「釜ヶ崎支援事務局」

ゆうちょ銀行口座(普通) 記号 14160 番号 93018821 「一般社団法人釜ヶ崎伝道支援会」

※ゆうちょ銀行口座にお振込み下さる場合は、初回に限り、ご連絡先住所を上記事務所までお知らせ下さい。